

発表タイトル	韓国国立中央図書館所蔵の綾足著作について
発表者所属名	日本文学研究専攻
発表者氏名	紅林健志
発表内容	
<p>今年度の RT 事業を利用して、韓国国立中央図書館所蔵の建部綾足の著作 2 点を閲覧する機会を得た。本発表では、それについての報告を行う。</p>	
<p>1 本朝水滸伝 (古 5-55-68)</p>	
<p>『本朝水滸伝』(初印は安永 2 年〈1773〉刊)の後印本。ただし、序および目録を、改題後修本「芳野物語」のそれと差し替えてあり、他に例を見ない。</p> <p>韓国中央図書館所蔵の、『本朝水滸伝』は改題以前の本に、改題以後の序と目録をつけて売ったいわば改装本とでも呼ぶべきものである。改題本がある程度の成功を収めたことを背景に、書肆の側が、改題以前の板本も同様の体裁で売り出そうと試みたものであろう。</p>	
<p>2 とはしぐさ (古 5-54-80)</p>	
<p>明和 7 年 (1770) 刊。片歌説について述べた綾足の俳論書。本書は全体にわたって、幕末の京都の俳諧師、甘泉亭伊東成祇による書入れが施されている。国文学研究資料館蔵『文久二年句合六十五番』(写本)と筆跡が酷似するところから、ひとまずは成祇自筆と見ておきたい(巻末に「喜随庵/楽々山人」と載るが、こちらはあるいは別筆か)。綾足が提唱した「片歌」の幕末期の受容をうかがわせる資料として興味深い。</p> <p>冒頭を例として掲げる。</p> <p>成祇云、此条、綾足が西東走走して風交するときみだりがはしきことのみなりしならん、さるを悪しく惑はしく其事の違ひ乱れたるは俳諧なりといふは一時交り人の乱れにてさらに俳諧の罪にはあらず。哥すら時代によりてよみ方、道にかなはず。此の道陵易すと歎き給ひし世もありしぞかし。慶応の今時に至りても乱りかはしきよみかたの人も多し。さりとして悉其事のちがひし人のみならんや。見の広からぬ故にぞあらん。</p> <p>分量も多く、同時代の俳論などと比較については現在調査中である。</p>	